

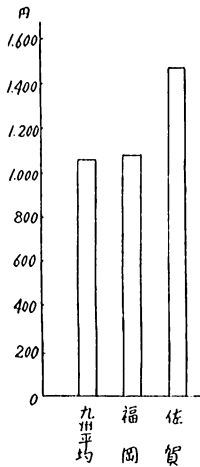
北九州稲作の生産性について (第2報)

坂梨 鷹元・南 侃
(九州農業試験場)

はじめに、北九州の平坦水田地帯における農業経営の展開方向の一つとして酪農の導入、拡大の問題がある。しかし、それには飼料作と稲作との合理的調整が必要になる。そこで、この地帯における稲作の生産性はどの程度の水準にあるのか？について、第1報では、主として九州を全国平均及び他の地域と比較考察したので、この報告では第1報と同じく米生産費調査成績によって、福岡及び佐賀両県稲作の生産性を比較分析した結果を記す。

北九州稲作生産性の現段階：福岡県と佐賀県を労働生産性の側面から比較してみると、1日当り家族労働報酬(第1図参照)では福岡県の約1,080円に対し

第1図 九州平均と福岡及び佐賀県における1日当り家族労働報酬(昭和33年~35年の3ヶ年平均)

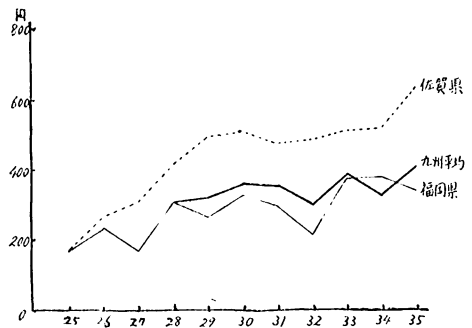


て、佐賀県においては約1,500円・その差は400円にも及ぶ大差がみられる。佐賀県稲作は土地生産力においても高い水準(10a当平均50kgも多い)にあるとともに、10a当生産費について約700円程低い水準にある。従って、150kg当生産費は750円という大巾な差がみられる。次に10a当所要労働量についても福岡県の169時間に対して佐賀県では157時間でその差は12時間、更に150kg当りでは約11時間も低いのである。この様に佐賀県稲作は労働生産性の水準が土地生産力と併進して高い水準にある。次に昭和25~35年に至る10年間の年次推移をみると、1日当り家族労働報酬におい

て佐賀県は福岡県より最も多い年には600円、平均300円程多く、高位水準をもたらしている傾向は10a当所要労働量・10a当収量及び生産費等において顕著に認められる。佐賀県稲作において労働生産性の高位水準は直接的には10a当投下労働時間が少いことにあるが10a当収量の増大=土地生産力も高いことは北九州稲作地域内部で幾多の問題を内包していると思われる。更に、両県の稲作10a当生産費を費目毎に比較してみると、佐賀県稲作では労働費において409円少く最も差があり、この点は特に注目される要がある。なお肥料費が136円、畜力費が393円、農具費・諸材料費等が40円台、資本利子が144円安く、反対に水利費が224円、種苗費が80円、賃料々金支払が52円、地代が180円それぞれ多くかゝっている。特に労働費、畜力費、水利費等で大巾な差があるのは注目すべき事である。

更に各生産費々目の動向をみると、(1)労働費：雇傭労働賃支払額の増加が并排に、福岡県に著しい傾向がみられる。(2)農具費：特に大農具償却費において全般的に近年甚だ顕著な増加率を示している。(3)水利費：佐賀県は福岡県及び九州平均に較べて著しく多く(第2図参照)最近更に、著増の傾向にある。

第2図 九州平均と福岡及び佐賀県における10a当水利費の年次推移



この水利費の内容実態と今後の動向推測は別の研究によって究明する必要がある。(4)肥料費、防除費、建物費、諸材料費等においては両県とも九州平均水準との差を漸次縮少する傾向にある。詳細は営農方式研究資料第4号“北九州稲作の特質についての分析資料No2”，(九農試，農業経営部)を参照されたい。